



はじめに

京都市生涯学習 新世紀プラン 策定の趣旨

もっと知りたい、もっと学びたい、もっと自分を磨きたい…

そんなふうを感じたことって、誰にでもあるのではないのでしょうか。

京都市では、「誰もが、どこかで、自由に、何かを^{*1}」学べる支援体系を創り出そうと考えています。

市民の皆さんが進んで学習に取り組み、それを深め、その成果が評価され、そして存分に活用していくことができるまち。学習が、より身近にあり、出会いと生きがいに満ち満ちたまち。

この計画は、そんな生涯学習のまちづくりを市民の皆さんとともに進めるために必要な京都市の取組をまとめています。

はじめに

※1)「誰もが、どこかで、自由に、何かを」

平成11年6月の京都市社会教育委員会議答申(※2参照)において示された考え方。

「誰もが、どこかで、自由に、何かを」学ぼうとする意欲の喚起、学ぶための支援の体系化と選択肢の確保を行政に求めている。

※2)京都市社会教育委員会議答申「京都の21世紀を切り拓く今日的生涯学習施策の在り方について」

平成10年4月に、京都市教育委員会教育長から京都市社会教育委員会に対して行われた諮問を受けて、同会議が、答申としてまとめたもの。

「接合」と「複合」を基盤にあらゆる教育・文化・学習資源を結び付けた「まなびやコンビナート・京都」の創出を謳っている。

1 策定のねらい

21世紀は、不透明感の強い、予測困難な時代と言われています。また、社会や経済の枠組みが大きく変動し、価値観の転換が多方面で生じるものと思われます。

そうした時代を主体的に生き、人生をより豊かで充実したものとするためには、生涯学習の果たす役割が極めて重要です。

生涯学習は、一人一人の市民の生涯にわたる自発的な営みです。

その意味では、何をどのように学ぶか、どう生かすかという一人一人の生涯学習計画があってよいと思います。また、あるべきだろうと思います。

そうした一人一人の生涯学習計画づくりや学習活動をサポートするために、行政の取組を総合的・体系的に推進するとともに、学びが市民のくらしやまちに溶け込むよう、様々な生涯学習関連機関や企業・団体等とのネットワークを核とした学習支援の新たな仕組みを提案・構築し、生涯学習を飛躍的に発展させることを目的として「京都市生涯学習新世紀プラン」を策定します。

2 策定の経緯

この計画は、平成11(1999)年6月の京都市社会教育委員会議答申「京都の21世紀を切り拓く今日的生涯学習施策の在り方について^{*2}」が提起した理念を踏襲しています。

答申は、21世紀の社会がめざすべき「共生」という考え方を生涯学習施策の基盤に据えて、「人を育てる」「文化を創る」「時代を拓く」という大きな目標を掲げ、京都の豊富な学習資源や民間のあらゆる教育機能を結び付けて、生きがいでだけでなく、生き方そのものを創り出し、地域のコミュニティや21世紀の社会を創造する力を育む施策を展開するよう提言しています。

京都市では、これを踏まえて、同年10月に民間の生涯学習関係団体等が集う「京都市生涯学習市民フォーラム^{*3}」の代表者と庁内組織「京都市生涯学習行政推進会議^{*4}」の代表者、さらには市民委員からなる「京都市生涯学習推進計画起草委員会」を設置し、市民参加のシンポジウムやアンケートなど、様々な市民の声を生かしてまとめたものです。

また、同年12月に定められた本市市政の基本方針となる「京都市基本構想」を踏まえて策定しており、部門別の「京都市基本計画」や地域ごとの「各区基本計画」とも連動するものです。

3 対象期間

この計画は、21世紀の初年度である平成13(2001)年度から22(2010)年度までの10年間を対象期間とします。

また、「京都市生涯学習市民フォーラム」と「京都市生涯学習行政推進会議」において年度ごとに重点的な取組指針を掲げながら本計画の着実な推進に努めます。

なお、社会情勢の変化等に応じて必要な見直し・改定を行います。

4 構成

この計画は、第1部で21世紀の潮流と生涯学習推進の新たな視点を提示しています。これを踏まえて、第2部では、行政の取組を市民の自律的・創造的な生涯学習支援策として体系的に再構築し、第3部で市民とのパートナーシップによる総合的なネットワークの形成と推進体制を打ち出す構成としています。

21世紀の社会

- 自由時間の増大 ●高度情報化の進展 ●少子・高齢化の進展
- 産業・就業構造の変化 ●国際化・異文化交流の進展
- 価値観・社会観の変化

市民が主役の生涯学習

生涯学習とは

- 主役は一人一人の市民
- 生涯学習の多面性
- 多様な学習を結び付けた双方向の体系化をめざす
- 知識や技能を身に付けることにとどまらない新しい生涯学習観の醸成

広がりと深まりを見せる市民の学習活動

●生涯学習の現状と今後の希望

京都の都市特性

- 学びと出会う機会の多さ、多様さ
- 文化の豊かさ、歴史の深さ
- 自然との共生
- 自治の伝統

生涯学習の新しい段階

ビジョン

- 生涯学習を通じて人や自然とかわる中で、自らの課題や地域の課題を解決する力(エンパワーメント)を育む

目標

- 人を育てる 文化を創る 時代を拓く

方向性と課題

- ともに生きる時代を基盤に据える
- 地域に根差した生涯学習施策を展開する
- 世界・日本全体を視野に入れる
- 情報の受発信力を高める
- 社会的課題を重視する
- コーディネート機能を強化する
- 人と人とのふれあい、心と心の交流を重視する

施策別

- 学びを支える人づくり
- 創造的な学びの機会づくり
- 身近な学びの拠点づくり
- 学びと出会う仕組みづくり
- 学びを通じてふれあう地域づくり
- 学んだ成果が生きる環境づくり
- 学びにあふれたまちづくり

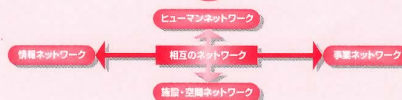
課題別

- 生涯学習の基盤を培うために
- 人、自然、地域社会とのかかわりを見つめ直す
- 生活にうおいをもたらす

パートナーシップの確立

大学・短期大学等教育機関、生涯学習関係団体・NPO、民間企業、報道機関等、他自治体等

新たなネットワークの形成



人・地域の新しい絆

「まなびやコンビナート・京都」の創出

京都市生涯学習行政推進会議

京都市生涯学習市民フォーラム

市民

※3) 京都市生涯学習市民フォーラム

平成6年1月に、市民の持つ活力と英知を結集し、市民感覚に根差した生涯学習社会づくりを進めることを目的に設置された組織。生涯学習関係団体等の代表者、学識経験者、本市職員等で構成されている。

※4) 京都市生涯学習行政推進会議

平成5年12月に、本市における生涯学習に関する施策について、相互に連絡し、調整を行うことにより、その円滑かつ総合的な推進を図るため設置された庁内組織。市長、副市長及び関係局長、区長等で構成されている。

京都市の総合計画の体系

